



2008年8月10日

いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの
平和講演会から



その

6

質疑応答から

高橋哲哉先生の講演会の内容をここ数回に渡って紹介してきました。

講演後に質疑応答の時間が持たれましたが「もし先生が首相になったら？」という質問が飛び出すなど実に多岐にわたるものでした。

充実した質疑応答のすべてを紹介するスペースはここにはありませんので、そのエッセンスを紹介しつつ、講

演会のまとめをしたいと思います。

身近なところから「声」にしていこう

質疑の中で一つの鍵語となったのが「どうしたらよいのか」ということです。

「子どもたちに平和を教えるには、どうしたらよいのか」「憲法9条を守り、平和を継続するにはどうしたらよいのか」という質問です。

もちろんそこには「教会はどうしたらよいのか」という課題が私たちに突きつけられていることは言うまでもありません。

高橋先生は、平和を学ぶには、子どもでも、大人でも、観念として学び始めるのではなく、歴史の具体的な物語、証言に聞くとところから戦争と平和について一緒に考え始めることが大切ではないかと言われました。

また、平和を継続していく

にはウルトラCのような特効薬はなく、日本国憲法で保障されている思想及び良心の自由、集会・結社・表現の自由などの権利を行使しながら、世論を変えていくしか方法はないと先生は言われます。

そして、それぞれの立場によつてできることが違うけれども、「この国は戦争に向かっている」という危機感を覚えたら、自分の身近なところからその危機感を「声」にしていくことが何よりも大切だと先生は参加者に語りかけ、講演は幕を閉じました。

平和をつくり出す者としての責任

高橋先生の講演を通して私たちは、「今の国は戦争に向かっている」ことをはっきりと知らされました。

「平和を実現する者は幸いです」との主イエスの御言葉に生きる私たちキリスト者、教会は、危機的なこの時代の

状況の中でどのような「言葉」を発する必要があるのでしょうか。

先生の講演を通して教えられたことは、平和を実現するには一人一人の平和に対する自覚と求め、そして平和を具現化していく行動が必要であるということです。特に御言葉に生きるキリスト者は平和をつくり出す責任があることを改めて思わされました。

キリスト者がそれぞれに遣わされている場所にあつて、平和をつくり出す言葉を語る者でありたいと、高橋先生の講演を通して強く思わされました。

講演会のお知らせ

- ◆テーマ：グローバルな教会としての歩み
- ◆講師：佐藤岩雄牧師
- ◆日時：9月6日（土）
13時～15時30分
- ◆場所：高座教会
（日本中会 教育情報委員会・神学・社会委員会共催）